

1 平成28年度の各種検査、調査等から考察される児童の実態

(1) NRT学力検査(2・3年学校学力検査、4・5・6年苫小牧市統一学力検査)

- ・2～6年の国語・算数の2教科で実施する。すべての学年で偏差値は、2教科とも50を下回っている。
- ・同一集団の経年変化は、全学年、国語・算数とも前年度の偏差値を下回っている。
- ・領域別で見ると、国語は、2・3年の読むこと、5年書くことの領域に課題がある。算数では、2年量と測定、5年数量関係領域に課題がある。

(2) 全国学力・学習状況調査

- ・国語Aは、平均正答率が全国平均をやや下回っている。正答数分布は、中上位層が厚い。話すこと・聞くこと、読むことの領域が高い。
- ・国語Bは、平均正答率が全国平均を上回っている。正答数分布は、上位層と中位層が厚い。書くこと、読むことの領域が高い。
- ・算数Aは、平均正答率が全国平均と同等である。正答数分布は、上位層が若干厚い。数と計算の領域が若干高い。
- ・算数Bは、平均正答率が全国平均を下回っている。正答数分布は、上位層が薄く中位層に厚みがある。すべての領域が全国正答率を下回っている。
- ・児童質問紙では、「学校に行くのが楽しい」の項目が全国・全道平均よりかなり低い。「国語・算数の勉強は好き」の項目は全国平均を下回る。家庭生活では、「寝る時間」「テレビやDVDを見る時間」は全国平均と同等であるが「ゲームをする時間」に課題がある。

(3) 児童アンケート、生活リズムチェック

- ・児童アンケートで「学校は楽しい」に肯定的な児童は、84%である。しかし、66%から100%と学年によって開きがある。また、「勉強はわかりやすい」に肯定的な児童は91%であった。
- ・児童アンケートで「毎日、家庭学習をする」と回答した児童は、95%で(土・日は80%)が、生活リズムチェックシートで家庭学習の目標時間達成の割合が、高学年になるとつれて低くなる(6年で23%、5年29%、4年45%)。
- ・インターネット等利用状況調査から家庭でテレビを見たりゲームやスマホ等を使用する時間は高学年が長い。
- ・生活リズムチェックシートで睡眠時間は各学年ともとれている。学習時間とテレビ等視聴時間のバランスのとれた家庭生活習慣の改善が必要である。
- ・学習の基礎基本の定着は、算数、国語ともに十分とはいえない。

2 学力向上推進の重点

- ・「学年×10+10分」以上の家庭学習時間と「自学自習」の推進
- ・家庭生活習慣の改善
- ・学習規律の徹底と基礎基本の確実な定着

3 具体的な到達目標

- (1) 全国学力・学習状況調査において、すべての調査で全国の平均正答率を上回る。特に、国語A・算数Aについて取り組みを進める。
- (2) 苫小牧市統一学力テスト及び学校独自で実施の学力検査において、同一集団の国語・算数の偏差値を前年度より上回る。

- (3) 児童アンケートの「勉強がわかりやすい」の割合を全学年とも90%以上にする。
- (4) 児童アンケートの「毎日(月～金)家庭学習に取り組んでいる」、「土・日曜日に家庭学習に取り組んでいる」の割合を90%以上にする。
- (5) 宿題も含む家庭学習時間(学年×10分+10分)を実行している児童の割合を80%以上にする。

4 目標を達成するための具体的な方策

(1) 児童の学習意欲、学習態度の醸成

- ・算数における習熟度別学習と高学年対象の三グループ編制による少人数指導の実施
- ・書く力を高める取組
- ・生活リズムチェックシートを活用した家庭学習習慣の充実
- ・朝学習の時間(10分→15分)、回数(2回→3回)を拡充し基礎基本定着のための取組
- ・放課後を利用した担任等による学習の補充指導
- ・講師等による放課後学習(週3回)の実施
- ・学生ボランティア笠を活用した長期休業中における補充学習の実施
- ・すべてのチャレンジテストの参加と結果分析
- ・国語、算数の短時間小テストの取組
- ・個人票の作成と指導への活用

(2) 教師の授業力向上と学級経営の充実

- ・校内研修を通じた授業改善
- ・学級経営交流会の充実
- ・一人年1回の授業公開と公開研究会やLIT授業へ1回以上、教育研究所やその他の研修講座へ2回以上の参加
- ・年2回の児童アンケート等による授業評価の実施と分析
- ・教室や廊下の掲示や言語環境など学習環境の充実

(3) 学校間の連携

- ・学校教育力向上エリア会議の取組の推進
- ・インプルーブ6充実期における中学校との連携
- ・小小連携の推進

(4) 家庭・地域との連携

- ・「とまこまい学びの3か条」の普及促進
- ・各学期に生活リズムチェックシートを活用した生活リズムの点検と改善
- ・「家庭学習の手引き」配布等による家庭学習についての情報提供
- ・学習内容を記したシラバスの配布
- ・PTA組織と連携した子育て研修会の開催

5 実施計画と実施担当

実施計画	計画内容	学力向上推進委員会	分掌・各委員会担当	担任
3月	○新年度学校改善プランの提示	◎		
4月	○学校改善プランを位置づけた学級経営案の交流 ○家庭学習の手引き作成と配布 ○全国学力・学習状況調査実施と自己採点 ○市内統一学力検査・学校独自の学力検査実施		○教務 ○教務 ○教務 ○教務	◎ ◎ ◎ ◎
4月～3月	○朝学習、放課後学習、チャレンジテストの取組 ○チャレンジテスト等の校内分析 ○家庭学習状況の把握		○教務 ○教務 ○教務	◎ ◎ ◎
5月	○全国学力・学習状況調査分析 ○中学校との学習面での交流 ○生活リズムチェックシート実施と考察		○教務 ○教頭、教務主任 ○教務	全 ○
7月	○児童アンケートの実施と考察 ○市内統一学力検査・学校独自の学力検査分析		○教務 ○教務	○ ○
8月	○学校改善プランを位置づけた学級経営反省と交流 ○長期休業中の補充学習		○教務 ○教務	◎ ○
10月	○学校改善プランの中間検証 ○生活リズムチェックシートの実施と考察	◎	○教務	◎
12月	○学校評価実施 ○児童アンケート実施と考察		○学校評価委 ○教務	○
1月	○長期休業中の補充学習 ○学校評価集計、考察提示 ○学校改善プランを位置づけた学級経営反省と交流		○教務 ○学校評価委・分掌 ○教務	○ ○
2月	○学校関係者評価実施 ○学校評価結果地域保護者へ公表 ○学校改善プランの検証 ○生活リズムチェックシートの実施と考察	◎	○管理職 ○管理職 ○教務	○ ○ ○

6 検証方法

- (1) 全国学力・学習状況調査(6年)
- (2) 市統一学力検査(4～6年)、学校独自の学力検査(2・3年)
- (3) チャレンジテスト(全学年)
- (4) 生活リズムチェックシート(全学年)
- (5) 児童・保護者アンケート、職員自己評価、学校関係者評価